
隠人使い 2 呪われし者 <5>

みづき海斗

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

隠人使い 2 呪われし者 <5>

【NZコード】

NZ699P

【作者名】

みづき海斗

【あらすじ】

そして綾の周りに人々が集い始める。

青く晴れた初夏をも思わせる陽気だった。

土御門 綾、藤宮 望、井上 遥、飯田 新一は明大前の近くにある某寺町通りの待合場所で会った。

開口一言、綾が不機嫌そうに、

「何で飯田先輩までいるんだ。」

呟くように言った。

「いいじゃないの、土御門君。」

遥は飯田の腕を掴み、「先輩、土御門君の事感謝してるのよ、あの事件以来。」

「そうだよ、土御門。」

飯田は強く頷き、「それに俺もここジモティだから何か役に立てる事がないかなって思つて。」

「良かつたじやん、綾！」

望は明るい笑顔で綾の肩を叩き、「協力してくれる人がいっぱい出来始めてるんだよ。いい事じやん。」

「でも、俺は『俺の事』に誰も巻き込むつもりはない。」

再び、呟く様に綾が言った。

「巻き込むなんて」

望は首を強く振り、「そんな事ないよ。きっと君の事、みんなが判り始めてるんだよ。」

「そうよ、そうよー！」

遥がガツツ・ポーズで、「誰もが土御門君の事遠巻きに今はしてるけど、そのうち判つてくれるわよ。飯田先輩みたいに。」

「遥の言う通りだよ、土御門。」

飯田は微笑し、「だから、俺もお前の力になりたいと思っている。」

「なあ、綾。」

望は再び綾に視線を向けた。

その綾の切れ長の目が僅かに細まる。

「それじゃ」

そう言つと、制服のポケットから人数分の白い紙を取り出し一枚一枚眼前にかざし、右手の人差指と中指をその紙に突き立て、

「印。」

呴くと彼らの目の前で青白い炎が微かに上がつた。

「え？」

「何？ 今の。」

綾以外の誰もが目をこすつた。

それは綾にしか見えない、五芒星の光。

「これをお前たちが『お守り』とも思つて身につけて欲しい。

「え・・・」

「うん・・・・・ 別にいいけど。」

「ただの紙じゃない？」

彼らは口ごちに咳き、陽の光にその紙をかざしたりしていた。

「俺を信じてくれるんだろ？」

綾は微笑すると、「これからどんな奴らが襲つて来ても、俺やその式神が皆を守る。相手はそれほど大きな『存在』だ。それだけは覚悟しておいてほしい。」

彼らにそう告げた。

呪われし者 参・2(後書き)

まごひらひです（――）。。（滝汗）忘れてる訳ではあつません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2699p/>

隠人使い 2 呪われし者 <5>

2010年12月3日06時32分発行